

個を生かす学級経営

*
渡 辺 美千枝

I はじめに

前任校において、過去3年間、特殊学級を担当してきた私は、昨年4月現任校に赴任して、一言も口をきかないTや、泣いてばかりいるK、乱暴なS、落ち着きのないY、H、T、ぼんやりしているH、片親のYとI・・・などのいる一年生を担当した。考えようによっては、みんな個性的・独自の性格を持つ子どもたちである。その42名の子どもたちとの出会いを、よりよくしていこうと意欲がわいた。

カウンセリング研修会で勉強し、子どもたちと接しているうちに、次々と、問題点も解決してきて、あまり困らなくなってきた。しかし、自分の思いどおりに岸にはめて、ぐんぐん引っぱってきたことを反省してみて、「これでよいか」ということを、強く感じはじめた。

教育は、ひとりひとりの子どもたちの、たしかな成長をめざすものでなければならない。子どもたちを生き生きと活躍させ、ひとりひとりを見落とさず、伸ばしていくために、どのような援助をしたらよいのか。日々の授業に、どう取り組んだら、個が生かせるか。問題性を持つ子に、更に、どうかかわっていったらよいか・・・などが、今年度、2年生（男子19名、女子22名）を担当しての、再認識した課題であった。

以下は、ひとりひとりを、学級集団の中によりよく生かすことを願って、一步一步取り組んできた、そのささやかな歩みの記録である。

II 研究の目的

ひとりひとりの子どもたちが、その可能性を最大限に発揮できる学級づくりをめざして、教育相談も取り入れて実践してきた経過を明らかにしながら、子どもたちの変容の姿をとらえ、個を育てる指導のあり方を考察する。

III 学級経営方針

〔基本的なかまえ〕

- みんなで、励まし合う学級づくり。「やってやれないことはない」（合言葉）
- 手本となる教師に。（真剣に取り組む、子どもの姿を見て学ぶ。）
- ひとりひとりの子どもたちと、ふれ合いを多く持つ。（理解、一体感。認め、意欲と自信を。）

1 児童理解

ひとりひとりの子どもを、正しくとらえつつける。（実践の項参照）

2 学習・生活指導。学級会活動。

(1) 学習指導

- ・けじめを持って、主体的に学習がすすめられるよう援助する。
- ・能力や実態に応じた指導の手だてを工夫し、ひとりひとりを生かす場や機会を設ける。
- ・人の話をよく聞き、自分なりの考えを持ち、進んで発表するように援助する。
- ・ひとりひとりが生き生きと、全力を傾けて取り組む学習体験をさせ、その喜びを味わわせる。
- ・体力づくりに気を配る。(全生活において)

(2) 生活指導

- ・ひとりひとりの考えが大切にされ生かされるような、あたたかい人間関係を育てる。
- ・ひとりひとりの長所を認め、学級の一員としてのよさを認めあって、仲よく頑張るよう励ます。
- ・自分のやりとげようとするめあてに向かって努力させ、望ましい自己実現ができるよう援助する。
- ・基本的な生活習慣が身につくよう、根気強い励ましと愛情で、個々を伸ばしていく。

(3) 学級会活動

- ・自分たちの問題を、自分たちで話し合って決め、実践していく喜びを体験させていく。
(本音を出し合って話し合い、交流し、ひびき合いの中で、新しい考え、豊かな考えへと発展させる。)
- ・係活動を通して、ひとりひとりがアイデアを出し合い、仲よく責任を持って仕事がやりとおせるよう、活動の場や機会を与え、認めたり励ましてやる。
- ・集会活動が、自主的に楽しくやれるよう、また、個が生かされるような手だての工夫をする。

3 教育相談

グループ相談、呼び出し相談、チャンス相談、親との面接などをとおして、ひとりひとりの問題解決の援助をする。

問題点のある子には、継続的に観察・面接をおこない、改善への援助をする。

Ⅳ 実践の概要

1 昨年度の実践の概要(1年)

〔1学期〕

- (1) まず、学級のふんい気づくりに力を入れた。何でも話し合えるあたたかい人間的なふれあいに。
 - 帰りの時には、ひとりひとりと握手することを欠かさないようにした。そして、一言そえることばは、その子のその日の状況に応じて(ほめる、励ます、明日のこと、さようなら、など)。せめて「おはよう」「さようなら」でも、一日に一言も交わさなかった子がいないように配慮した。
 - いっしょに遊んでやったり、チャンス相談をよくやり、ふれ合いを多く持った。
 - 子どもの話には、耳を傾けて、真剣に聞いてやるようにした。(このことは、子どもに満足感を与え、その上、人の話をよく聞き、自分なりの考えを進んで発表する子どもになるための、大きな力となった。)
 - 朝の「みなさんおはよう」の歌、お帰りの「さようなら」の歌で、気持ちの通じ合いをはかった。

（継続中）

- 簡単な仕事を手伝わせ、礼を言い、ついでに話しこむ機会もつくった。（どんな子でもよい子だなあと感じた。）
- (2) 家庭訪問や家庭調査表などでも子どもを知ることに努めた。問題を持つ子には、おたよりで知らせ合ったり、親子との面接をおこなった。（ぼんやりしていて集中力のないH。一言もだれとも口をきかないT。乱暴でみんなをいじめるSに。）

〔2・3学期〕

1学期の実践で、年度当初の問題点が減ってきた。泣いてばかりいたKも、笑顔が多くなってきた。一言も話さなかったTも、口をききはじめた。ぼんやりしているHも、母親とのおたよりの交換で、よい方へ向いてきた。乱暴なSは、組中の者をいじめるのをやめたが、まだまだ、目立つ行動が多い。

更に、効果を期待して、次のような実践をした。

- (1) 各自のめあてを教室に掲示し、時々反省の時間を設け、ほめたり励ましたりした。
- (2) 進んで勉強、進んでよいことをやるよう奨励した。（グラフに○をつけてやる。）
- (3) 観察記録簿を作成し、子どもたちの目立つ行動・よかった点などを記録した。
- (4) 毎日の生活で、よかったこと・悪かったことなどを個人カードに○×で記入させた。
- (5) 定期研修、その他の出張で、自習時間が多かったので、子どもたちが自主的に学習をやるよう配慮した。（リーダーの育つ機会ともなった。）
- (6) 給食の配膳や後しまつ、清掃にきてくれる上級生に、感謝の気持ちをあらわすことを実践した。

「ありがとう」・・・1学期から

「どんなおれいをしたらよいかはなしあおう」・・・学級会で話し合って実践した。

- (7) 学級会活動の研究授業（3学期） （実践記録参照）

個を生かす、大事な活動だった。自分なりの考えを、全員の子どもが、何でも発表できる学級のふんい気となった。

- (8) 教育相談・・・（毎日の子どもたちとのふれ合いと並行しておこなう。）

母親の来談，母親の呼び出し相談，チャンス相談も実施した。

2 今年度の実践（2年）

1年当初の問題点は、ほとんどなくなった。2，3名の問題傾向が残っている程度。でも、ぐんぐん思い通りに引っぱってきた自分を反省し、子どもたちを見直してみた。

はたして私は、個を生かしてきただろうか？ どの子もかけがえのない大事な子ども、可能性を秘めた子どもたちであると考え、その責任の重さを感じた。

(1) 児童理解

子どもの伸びようとするかすかな気持ちの動きでも、敏感に汲み取る力が私になれば、子どもたちの可能性を最大限に発揮させることはむずかしいと考え、全生活の中でひとりひとりをよく見つめ、あらゆる角度からとらえ続けようと計画し、実践してきた。

- 知能テスト実施(5月) 子どもの一面を知ることができた。
- 子どもたちとの接触 (握手, 話しかける, 遊ぶ, 子どもたちの声に耳を傾ける, など。)
- 日常の観察記録 (1年から継続して)
- 長所しらべ (子どもたち同士, お互いに長所を出し合う。親からも, よい点を聞かせてもらう。) よさをわからせたり, 認めてやったりすると, 次々とよさを見せてくれる。ほめることが多くなると学級内に明るさが増し, 意欲的になってきた。
- 家庭内における親子のふれあいに関する調査(「子ども用」を実施)(紙面の都合で省略)
- 交友関係調査 (")
- 親子関係診断テスト(「両親用」を一部の両親に実施)

(2) 学習指導

- ① 主体的学習 (自分から意欲的に学習に取り組めるようにするために)
 - 「すすんで勉強」の奨励(やってきたら目をとおし, ほめて励ます。表に○をつける等もやった。)
 - 朝学習は, 子どもたちの自主的な活動の場である。かわるがわるリーダーが出て, ハーモニカを吹いたり, 算数の問題をといたり, 国語の本を読んだり, 全員で集会活動の練習をしたり, 曜日によっては個人学習をしたりしている。ほめてやるチャンスが多くなった。
 - 自発協同学習の実施 (紙面の都合で省略)
教師の指図を待っていなくとも, 自分たちで考えてやれるようにしたいと思っの試みであった。喜んで学習し, 効果があったと思う。
- ② 全力を傾けて学習できるような援助を。(努力を認める。成功の喜びを味わわせる。)
わかるまでがんばろう。友だちに説明できるようにしようとかまえ。また, ひとりひとりの能力を考え, どんな小さい考えでも生かしてやる努力をした。(教師の真剣な姿は子どもに通じる。)
- ③ まちがってもいい。まちがいはだれにでもある。一生懸命に考えてまちがったら, また考えればよい。自分にも, みんなのためにもなる。一べんに出来たら, もう考えることはないというのはだめ。学級を, 自由に, 本音を出して言われるふんい気にするには, 効果が大きかった。

(3) 生活指導 その他

- ① 問題性を持つ子ども可能性を秘めているし, 必ずよさがある。どんな子ども, 教師の一言で, 向上が期待できることを何人かの子どもたちが, 実証してくれた。
「お互いに悪いところは直していこうね。先生がまちがっていたら教えてね」も効果があったと思う。
- ② 競争における配慮
子どもたちは競争が大好きであるが, 効果にのみ心をうばわれ, いつも○がもらえない子, ×が多くつく子などの気持ちを, あまり考えなかったことを反省し, 2学期からは, 配慮しながら実施した。
- ③ 清掃
子どもたちといっしょに清掃をやるようにしてきた。協力し合って, 清掃結果の成績がよかった。
- ④ グループ活動の強化
問題傾向のあった子ども, グループ内に受け入れられて安定してきた。

（学習グループ，給食グループ，係りグループ，清掃グループ，遊びグループ，遠足や集金グループ）

⑤ 体力づくり 「休み時間に，毎日かけ足」「グラウンドや体育館三周」

体力が付き，がんばりもきき元気がよい。球技大会や水泳大会，リレーの選手決めなどに，よい成績をあげてきた。

⑥ 班ノート 各班ごとに，毎日順番に書き続けている（8班）

自分の思っていること，考えたこと，要望，何でも書いてくるので，個を生かしていくためには大変なになっている。必ず目をとおり，感想を書き入れて励ましてやっている。

(4) 学級会活動

学級会活動は，個を生かし生き生きと活動させるために効果が大きい。学級内の問題で，みんなが話し合って決めた方がよい問題を議題にし，本音を出し合って決め，そして実践していくことの楽しさを味わってきた。子どもたちは学級会が大好きで，自分たちの学級は，自分たちの力でよくしていこうという，前向きの姿がうかがえる。

2学期の実践例より，「学級めぐりに，なにをやるかをきめよう」「マンガコンクールのそうだんをしよう」「低学年朝会で，なにをやるかをきめよう」「たんじょう会のそうだんをしよう。」など。

係活動が自主的に協力し合ってやれるよう，活動の場や発表の機会を与えてきた。

(5) 教育相談

事例1 H（男）

動作緩慢，ぼんやりしていて気が弱くうそもつく。知能偏差値34，評価段階は1だが，学習成績は3段階をとっている。母親は教育に熱心だが，一定の考えがなく，不安定。

○ 教育相談と経過

1年の時は，主に，おたよりノートを使って相談を受けていた。（面接は2回）

相談の結果，毎日，日記を書くことに決め，3学期はほとんど休まずに書き続けた。時々，クラスのみんなに読んで聞かせて，拍手してほめてやった結果，自信を持てるようになった。

2年には，母親との面接2回，両親いっしょの面接1回，面接のたびに，子どものことや，家庭内のことがよくわかり，子どもを，より深く正しく理解することができた。

親子関係診断テストには，喜んで協力した。結果は，拒否・支配・矛盾が強く出ている。

親の子を見る目が変わり，Hのよい点が見つけられるようになったことと，Hの気持ちを，聞いてやるよう努力している点が，強く感じられた。

子どもの姿を見て親が学ぶ（反省する）ことが，いかに大切かを痛切に感じさせられた。

事例2 S（男）

1年の1学期はほとんどの子がなぐられたり，いじめられたりした。2年になってからは，乱暴することはめったにないが，時々，ふざけたり，きまりを破ったりして迷惑をかける。また，忘れ物は，1年の時から多い。知能偏差値46。評価段階は3だが，学習成績は1と2で下の段階である。

家では，あまりきかなくて，なわで柱にしほりつけておくことがよくあるという。いどこ同士同じ組で，家が隣り合っているのに，親同士2年間も口をきかないとのこと。父母に問題を感じる。

Ⅳ 教育相談と経過

主に、チャンス相談をよくやり、ふれ合いを多く持った。また、観察記録もくわしくとり、よさをみんなに紹介し、みんなで認め合うようにした。時々、ほめて拍手してやった。特に、握手、だきしめる、頭をなでるなどの、肌によるふれ合いや、いっしょに遊んだり、作業したりすることは効果があった。その他、運動が得意、おもしろい顔やおもしろい話がじょうずなど長所が次々と認められ、みんなに「よくなった。よくなった。」と言われるたびに、よい方に向いてきた。

母親との面接は、1年の時2回、2年に2回おこなったが、Sの生活態度を変容させたものは、むしろ、Sがクラスに受け入れられるようになったためと考えられる。

V ま と め

個を生かす学級経営は、カウンセリングの目的と、密接に関係する。受容的態度、共感的理解の大切さがわかって努力してきたものの、やはり、指導性が前面に出過ぎて適応を強調したり、失敗や反省点が多かったように思う。ひとりひとりを生かすのは、何といても学級経営が基盤であり、教師が、いかにあらねばならないかにかかっていると思う。

次に、歩みをふりかえり、個を生かすために効果があったと思われる点をまとめてみた。

- (1) あたたかい人間的なふれ合いが大切である。(ひとりひとりの子との内面的結びつき、愛情と信頼)
- (2) 教師のあり方が大切である。

子どもの姿で教師は反省。毎日の取り組み方が真剣。情熱を持ってやる。健康体が大切である。

- (3) ひとりひとりをよくつかみ、よさを見出し、可能性を引き出してやる。

教師の励ましの一言で、めざましい向上も、期待できる。喜びも味わわせてやれる。子どもの立場を理解し、子どもを生かす努力をし、生き生きと行動させる。

- (4) 学級会活動は、学級経営の基礎とも言える。

何でも話し合える明るい学級、学級づくりがうまくいっていると、学級会活動はうまくいく。ひとりひとりを生かすのに大切な活動であった。学級内の問題は、学級ぐるみでよくしていくと効果が大きい。

- (5) ひとりひとりが、主体的に取り組めるような援助をしてやる。

やらせられるのではなく、自分からやるところに大きな効果も期待できる。

- (6) 教育相談も効果がある

親が変われば、子どもも変わる。親、子、教師の交流を深めることが、前進の基盤となった。

- (7) 交友関係をよくすることも大切である。(めあて…「だれとでも、なかよくできる子ども」)

集団の中で安定してくると伸びてくる子どもが多いことを感じる。子どもたちの相互作用が大切である。

最後に、41名の子どもたちと共に、心を通じ合って生活する大切さを、強く感じている今日この頃であり、子どもたちのために頑張ったことが、自分にとってもしあわせであり喜びであったと、深く感じていることを再言して終わる。